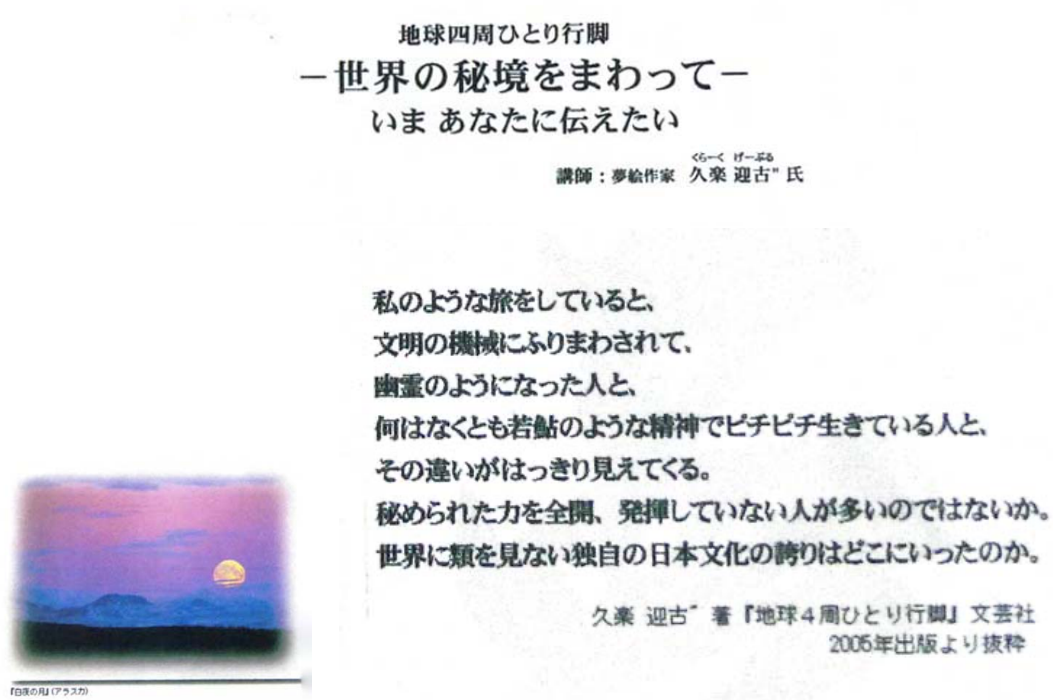


足跡、重複掲載になるかも知れませんが、
京都外国語大学にて、過去、2回の講演機会をいただきました。
一度は、森田講堂にて。そして、留学生対象と、2度目の機会もいただきました。
その節の、2度目の案内の原案、16年間かけて地球4周、16万キロ、
30余ヶ国の秘境をひとり行脚。

危険をともなう自分探しの冒険を続行。現在人が忘れかけていた
地球の原風景を、心に映しとり、それを日本の伝統文化である和紙に再現。
この独特の創作活動により「夢絵作家」とよばれる。
研ぎ澄まされた心眼で自然が放つ一瞬の「瞬き」の遭遇に情熱を燃やすと過分のご紹介。
下記は、その節の案内文の一部。心模様 6313 の出版本。



左上画像は、アラスカ

山はみどり 野に花 人にははこころ

秘境の大自然のなかにポツンとひとり立っていると、
人間はなんと小さい存在なのだろうかとしひしと感じる。
自然は美しかった。
自然をだいにしようではないか。
美しいものをだいにしようではないか。
山はみどり、野に花、人にははこころ。
美しいものを美しいと感じることをだいにすることだ。
いまこそ環境保全が問われている。

久楽 迎古 著『地球4周ひとり行脚』文芸社
2005年出版より抜粋



『金色の海』(ノルウエー)

字が小さいので、下記拡大。(上は、北欧ひとり旅での画像記録・後日ご紹介)

秘境の大自然のなかにポツンとひとり立っていると、
人間はなんと小さい存在なのだろうかとしひしと感じる。
自然は美しかった。
自然をだいにしようではないか。
美しいものをだいにしようではないか。
山はみどり、野に花、人にははこころ。
美しいものを美しいと感じることをだいにすることだ。
いまこそ環境保全が問われている。

久楽 迎古 著『地球4周ひとり行脚』文芸社
2005年出版より抜粋

また、皆さんのサポートのおかげで、**産経新聞**に、約**7年間**、
毎週月曜日、小さな記事ですが、**約350**は、掲載させていただきました。

プロではないことを、重々自覚。素人の延長線上のチャンス。

人生の旅という観点では、学びと気づき、大きな成果で、今でも、前進の活力源。

講演や**個展**、**産経新聞**「**地球のかおり**」等々のご感想、

年齢も幅広く、小学生からも、また、新聞社経由等々、今も手元に所持。

反省材料であり、今も、久楽**前進の活力源**になっています。